

#### 4 回復の動きがみられた鉱工業生産

本県の鉱工業生産は、2012年に、輸送機械の生産が、年前半はエコカー補助金の復活に伴い増加、年後半は補助金終了後の減産の動きを受けて推移し、13年は、輸送機械を中心に回復基調となり、年後半は消費税率引上げ前の駆け込み需要がみられた。14年4月以降は、駆け込み需要の反動減から、生産は回復の動きに足踏みがみられた。

##### (2年連続で上昇した生産指数)

2013年の鉱工業生産指数(2010年=100)は104.3で前年比1.3%の上昇となり、2年連続で前年を上回った。業種別にみると、全21業種中、輸送機械工業、電子部品・デバイス工業など10業種で上昇し、情報通信機械工業、はん用・生産用・業務用機械工業など11業種で低下した(図表4-1)。

図表4-1 2013年の業種別生産指数(愛知県)

	ウェイト	指数	対前年増減率	寄与度
鉱工業	10000.0	104.3	1.3	1.3
鉄鋼業	533.8	99.6	-0.3	-0.016
非鉄金属工業	144.5	100.2	-0.1	-0.001
金属製品工業	229.7	100.8	-4.2	-0.098
はん用・生産用・業務用機械工業	975.9	101.8	-7.1	-0.739
電子部品・デバイス工業	49.1	227.1	169.7	0.681
電気機械工業	469.1	101.2	4.4	0.196
情報通信機械工業	289.5	51.2	-22.7	-0.422
輸送機械工業	4759.4	108.3	2.9	1.432
窯業・土石製品工業	302.6	109.4	15.4	0.429
化学工業	430.9	117.6	6.7	0.310
石油・石炭製品工業	174.7	97.1	-11.6	-0.215
プラスチック製品工業	697.5	114.6	0.4	0.034
パルプ・紙・紙加工品工業	51.2	95.9	-0.2	-0.001
繊維工業	120.8	93.8	-2.7	-0.030
食料品工業	349.3	87.3	-7.6	-0.244
ゴム製品工業	178.3	99.2	0.5	0.009
家具工業	59.5	90.2	1.1	0.006
印刷業	160.4	67.7	-9.2	-0.107
木材・木製品工業	12.0	89.5	-5.6	-0.006
その他製品工業	8.4	109.0	4.5	0.004
鉱業	3.4	100.7	3.4	0.001

注:ウェイトは付加価値額ウェイト  
資料:愛知県統計課「愛知県鉱工業指数」

#### (全国と本県の状況)

本県における鉱工業生産に占める業種別のウェイト(2010年=100)をみると、輸送機械工業が47.6%と際立って大きく、これに次ぐはん用・生産用・業務用機械工業が9.8%と、この2業種で全体の60%近くを占めている。一方、情報通信機械工業は2.9%、電子部品・デバイス工業は0.5%と2業種で3.4%であり、IT関連産業の占める割合が低い。

全国(2010年=100)では、輸送機械工業が19.1%、はん用・生産用・業務用機械工業が12.7%で、合計31.8%となり、本県の同割合と比べて約半分である。また、情報通信機械工業が4.5%、電子部品・デバイス工業が8.2%で、合計12.7%となり、本県の同割合と比べて4倍近くとなっている。

このように、本県と全国では業種別のウェイトがかなり異なっていることから、生産指数の動きに違いが生じることがある(図表4-2)。

図表4-2 2013年の業種別生産指数(全国)

	ウェイト	指数	対前年増減率	寄与度
鉱工業	10000.0	97.0	-0.8	-0.8
鉄鋼業	391.1	97.9	0.4	0.016
非鉄金属工業	232.5	96.3	-1.9	-0.045
金属製品工業	418.1	98.9	-0.9	-0.038
はん用・生産用・業務用機械工業	1273.1	103.2	-3.1	-0.430
電子部品・デバイス工業	818.6	88.5	1.5	0.109
電気機械工業	667.7	101.2	3.1	0.205
情報通信機械工業	453.4	68.6	-11.1	-0.399
輸送機械工業	1912.4	99.8	-2.0	-0.391
窯業・土石製品工業	315.8	99.7	2.5	0.077
化学工業	1277.4	97.4	1.0	0.131
石油・石炭製品工業	175.8	94.8	0.7	0.013
プラスチック製品工業	507.5	98.2	-0.1	-0.005
パルプ・紙・紙加工品工業	203.6	97.3	1.1	0.023
繊維工業	183.4	98.4	-2.0	-0.038
食料品・たばこ工業	613.9	97.8	0.1	0.006
ゴム製品工業	161	98.5	-0.3	-0.005
家具工業	67.3	105.6	3.0	0.021
印刷業	197.1	92.4	-4.0	-0.079
木材・木製品工業	58.4	104.1	4.3	0.026
その他製品工業	50.8	96.2	-4.1	-0.021
鉱業	21.1	96.6	-4.4	-0.009

注:ウェイトは付加価値額ウェイト  
資料:経済産業省「鉱工業指数」

本県の生産指数の動きを四半期別にみると、2010年1-3月期以降は前年を上回る水準が続いていた。11年は、東日本大震災によって生じたサプライチェーンの寸断により、1-3月期、4-6月期と再び大きな落ち込みを記録したものの、サプライチェーンの復旧により、10-12月期には前年同期比がプラスに転じた。12年に入って、エコカー補助金による効果から輸送機械を中心に生産活動が活発化し、1-3月期、4-6月期は大きく上昇した。7-9月期は、エコカー補助金効果の一巡からプラス幅が縮小し、10-12月期にはマイナスとなった。13年1-3月期以降、政府の経済対策や日本銀行の金融政策などにより円安が急速に進み、生産は持ち直して指数は上昇し、7-9月期にはプラスに転じた。10-12月期には消費税率引上げ前の駆け込み需要がみられ、大きく上昇したものの、14年1-3月には低下傾向がみられ、4-6月期には駆け込み需要の反動減により、前年同期比はマイナスとなった。

一方、全国も、10年1-3月期には前年同期比がプラスに転じ、4-6月期以降は伸びが鈍化するも前年を上回る水準が続いていた。11年1-3月期、4-6月期は、震災の影響により低下し、年後半にはタイの洪水被害の影響からマイナスが続いた。12年1-3月期にはエコカー補助金の復活から前年同期比がプラスに転じ、4-6月期もプラスとなった。12年7-9月期以降は、エコカー補助金効果の一巡から4四半期連続でマイナスとなった。その後、13年7-9月期にプラスに転じ、14年1-3月には消費税率引上げ前の駆け込み需要がみられた(図表4-3、4-4、4-5)。

図表4-3 生産指数の推移(愛知県・全国)

(2010年=100) (%)

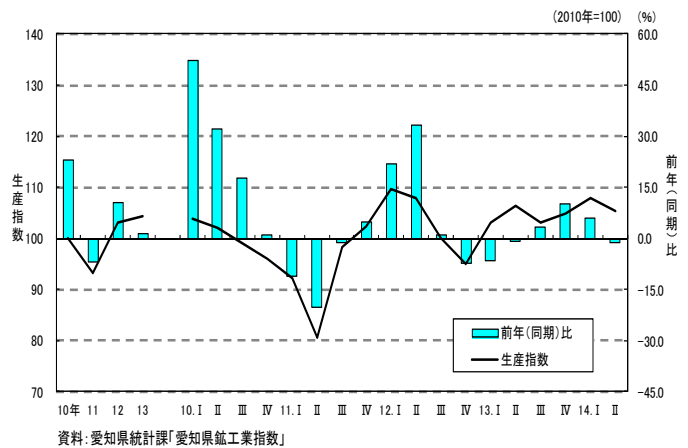
		愛知県		全国	
		指数	対前年(同期)増減率	指数	対前年(同期)増減率
2012	年間	103.0	10.5	97.8	0.6
	1-3	109.7	21.8	101.3	6.6
	4-6	107.9	33.3	99.1	6.8
	7-9	100.1	1.2	95.9	-3.9
2013	年間	104.3	1.3	97.0	-0.8
	1-3	103.1	-6.4	94.6	-7.8
	4-6	106.5	-0.7	96.1	-3.0
	7-9	103.1	3.3	97.8	2.3
2014	年間	-	-	-	-
	1-3	109.2	5.8	102.5	8.2
	4-6	105.3	-1.2	98.6	2.7
	7-9	-	-	-	-

注1: 期別の指数は季節調整済指数

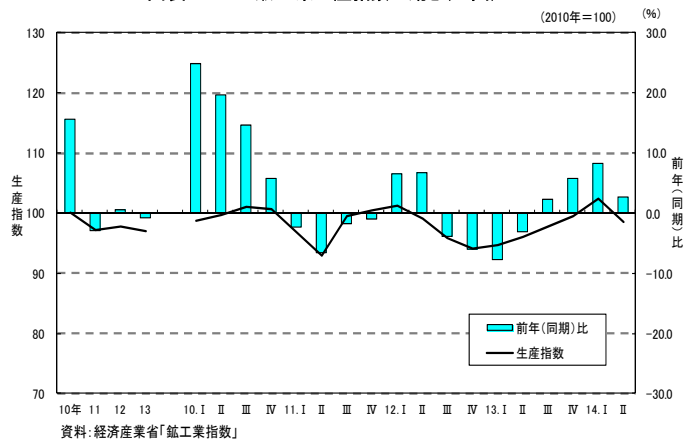
2: 対前年同期増減率は原指数から算出

資料: 愛知県統計課「愛知県鉱工業指数」、経済産業省「鉱工業指数」

図表4-4 鉱工業生産指数の動き(愛知県)



図表4-5 鉱工業生産指数の動き(全国)



**(上昇した生産財、低下した投資財と消費財)**

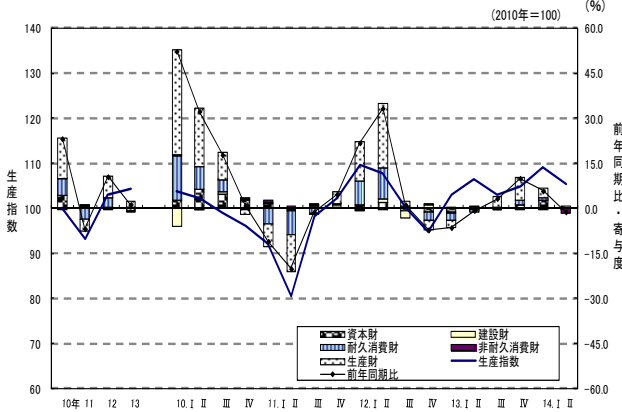
本県における 2013 年の生産を財別にみると、投資財のうち資本財は、前年比 1.8%低下し、2年連続の低下となった。また、建設財は、前年比 0.4%上昇し、3年連続の上昇となった。投資財全体では、前年比 1.5%低下し、4年ぶりの低下となった。

消費財のうち耐久消費財は、前年比 3.3%低下し、2年ぶりの低下となった。また、非耐久消費財は、前年比 1.7%低下し、7年ぶりの低下となった。消費財全体では、前年比 2.9%低下し、2年ぶりの低下となった。

一方、生産財は、前年比 3.8%上昇し、2年連続の上昇となった。

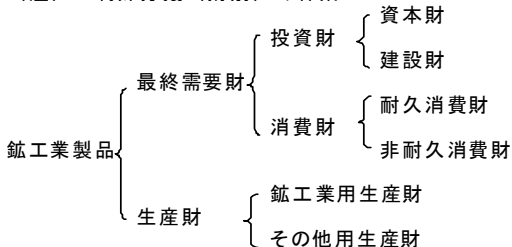
このように、13 年は、生産財は前年から上昇したものの、投資財と消費財は前年から低下した(図表 4-6)。

**図表4-6 鋳工業生産 財別寄与度の推移**



資料:愛知県統計課「愛知県鋳工業指数」

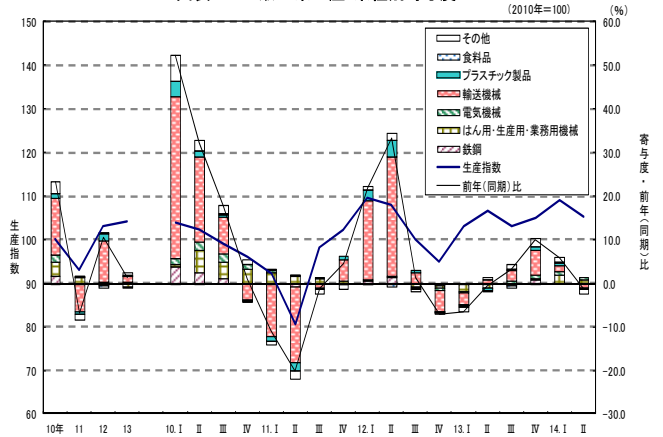
(注) 特殊分類(財別)の体系



**(主要業種の動向)**

2013 年の主要業種の動向をみると、電気機械は 2 年ぶりに、輸送機械、プラスチック製品は 2 年連続して前年を上回る一方、鉄鋼は 2 年ぶりに、はん用・生産用・業務用機械と食料品は 2 年連続して前年を下回った。業種別の寄与度をみると、最もウェイトの高い輸送機械の寄与度は 1.4%で鋳工業全体の伸び率を上回った(図表 4-7)。

**図表4-7 鋳工業生産 業種別寄与度**



資料:愛知県統計課「愛知県鋳工業指数」

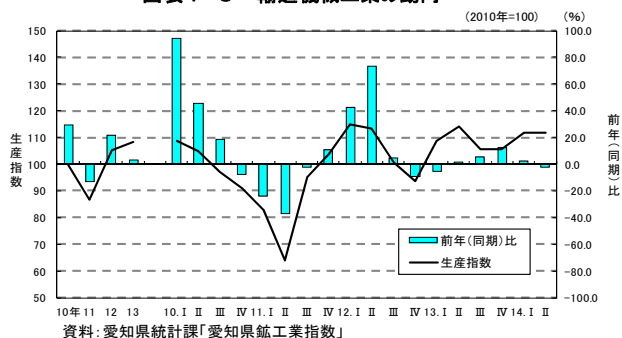
**〈輸送機械工業〉**

本県製造業の主要産業である輸送機械の 2013 年の生産指数は 108.3 で、前年比 2.9%上昇し、2年連続で上昇した。これは、海外経済の持ち直しを受けて輸出が増加し、生産に回復の動きがみられ、自動車部品(同 4.1%上昇)等が増産したことによる。

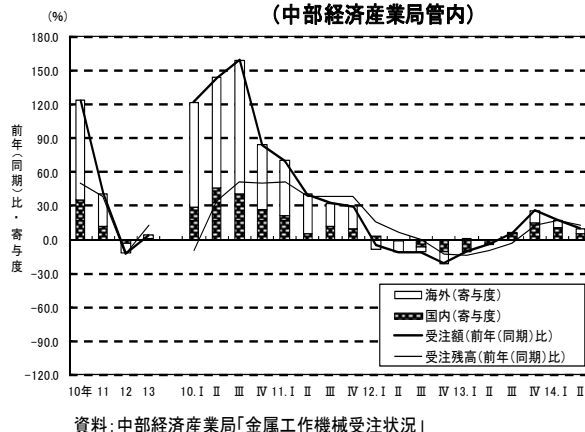
13 年の生産指数の動きを四半期別にみると、1-3 月期は前年同期比 5.2%低下したが、国内・北米向けの自動車生産が堅調であったことなどから次第に生産が持ち直し、4-6 月期は同 1.4%増、7-9 月期には同 5.5%増、10-12 月期には同 12.1%増と上昇幅が拡大していった。

14 年 1-3 月期も前年同期比 2.6%上昇したものの、4-6 月期は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動減から同 2.1%低下した。(図表 4-8)。

図表4-8 輸送機械工業の動向



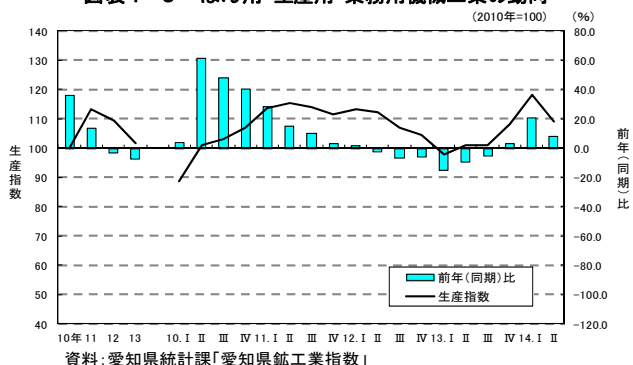
図表4-10 金属工作機械の受注動向  
(中部経済産業局管内)



〈はん用・生産用・業務用機械工業〉

2013年のはん用・生産用・業務用機械の生産指数は101.8で、前年比7.1%減と2年連続で低下した。これは、金属工作機械が同24.1%、機械工具が同15.7%低下したことなどによる。(図表4-9)

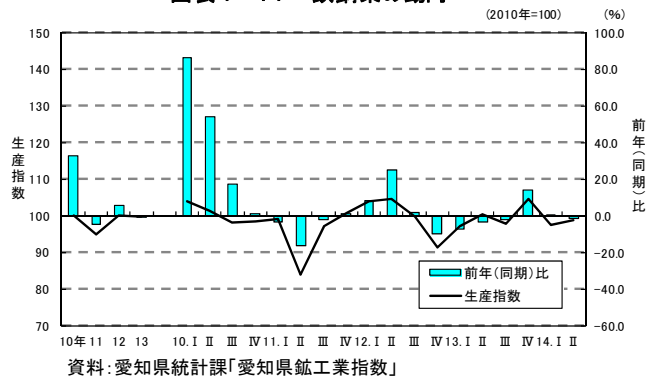
図表4-9 はん用・生産用・業務用機械工業の動向



〈鉄鋼業〉

2013年の鉄鋼業の生産指数は99.6で、前年比0.3%低下し2年ぶりに低下した。鍛造品が同1.3%、鉄素製品が同1.3%低下したことなどによる(図表4-11)。

図表4-11 鉄鋼業の動向



「金属工作機械受注状況」で中部経済産業局管内の金属工作機械メーカー主要8社の受注額をみると、前年比3.9%増と2年ぶりに前年を上回った。国内受注は前年比3.8%増と、2年ぶりに受注額が前年を上回った。業種別では、造船業(同27.0%増)、鉄鋼業(同9.6%増)、一般機械工業(同3.1%増)などが前年を上回った。海外受注は前年比3.9%増と、2年ぶりに前年を上回った。地域別では、北米向けが同5.5%増、ヨーロッパ向けが同24.2%増となったものの、アジア向けが同5.7%減と2年連続で前年を下回った。国別では、アメリカ向けが前年に引き続き1位で同11.3%の大幅増となり、2位の中国向けの受注は同2.2%減となった(図表4-10)。